

B-7 シルクおよびシルクライク和服地の物性と和服の外観について
大阪市大家政 ○岩崎 錦 下村早苗

目的 衣生活が豊かになるにつれシルクに対する要求度が高まり、種々のシルクライク織物も生産されるようになった。これらについて、従来は主として触覚による風合の判定やこれに関連する物性についての研究が多くなされてきた。

これに対し、ここではシルクやシルクライク織物を和服として着装する場合の外観（形態の美しさ）に関して、視覚による官能検査とこれに影響をおよぼす織物の物性の測定を行ない検討を試みる。

方法 試料としてシルクおよびシルクライク錦紬八掛地をとりあげた。まず試料布を人台にかぶせ、この外観の美しさについて、順位法により10人の被験者の視覚による順位づけを行なった。

平面的な布が複雑な曲線をもつ立体的な身体に添うための最も重要な物性としてドレープ性が考えられる。またこれに関連する物性として剪断性、曲げかたさなどが考えられる。そこでHamburgerのドレープ係数、一定荷重時の剪断角、ハートループ法による曲げかたさの測定を行い、これらと官能検査による順位との相関を求めた。

結果 ドレープ係数と視覚判定による美しさの順位との間には高度の相関($r=0.92$)が認められた。剪断性は絹織物が最も大きく、その身体へのなじみの良さを表わしている。曲げかたさについては、ここにとりあげた絹織物にタテ、ヨコ方向の差が見られないのに対し、シルクライク織物ではタテ、ヨコ方向による差が大きい。これはドレープの形にも大きく影響している。